



政府統計

報道関係者 各位

令和6年6月 25 日

【照会先】

政策統括官付参事官付雇用・賃金福祉統計室

統計管理官 角井 伸一

室長 補佐 原口 恵子

労働経済第一係

(代表電話) 03(5253)1111(内線 7622)

(直通電話) 03(3595)3145

労働経済動向調査（令和6年5月）の結果を公表します

厚生労働省では、このほど、労働経済動向調査(令和6年5月)の結果を取りまとめましたので、公表します。

「労働経済動向調査」は、景気の変動が雇用などに及ぼしている影響や今後の見通しについて調査し、労働経済の変化や問題等を把握することを目的に、四半期ごとに実施しています。また、今回は特別項目として、「令和7年新規学卒者の採用計画等」についても調査しています。

本調査は、令和6年5月1日現在の状況について、主要産業の規模 30 人以上の民営事業所のうちから 5,786 事業所を抽出して調査を行い、2,687 事業所(うち有効回答 2,597 事業所)から回答を得ています。

(調査結果のポイント)

1 正社員等、パートタイム労働者ともに、「不足」とする事業所割合が引き続き多い(令和6年5月1日現在)

○ 労働者過不足判断 D.I. (「不足」-「過剰」) (注1)

- ・ 正社員等労働者(調査産業計) +45 ポイント
- ・ パートタイム労働者(調査産業計) +29 ポイント

【P5表1、表2、P6図1、図2、P16 附属統計表第3-1表】

2 正社員等労働者数が「増加」とする事業所割合が多い(令和6年4~6月実績見込)

○ 雇用判断 D.I. (「増加」-「減少」) (注1)

- ・ 調査産業計 正社員等雇用 +4ポイント、パートタイム雇用 +2ポイント
- ・ 産業別

正社員等雇用 「情報通信業」(+14 ポイント)、「宿泊業、飲食サービス業」(+10 ポイント)などでプラス

パートタイム雇用 「宿泊業、飲食サービス業」(+22 ポイント)、「不動産業、物品賃貸業」(+11 ポイント)などでプラス

【P7表3、図3、P8 表4、図4、P15 附属統計表第2表】

3 令和7年新規学卒者(注2)の採用予定者数を「増加」とする事業所割合は、高校卒、専修学校卒を除く各学歴で前年を上回った(令和6年5月1日現在)

令和7年新規学卒者の採用予定者数を「増加」とする事業所の割合は、高校卒 26%(27%)、高専・短大卒 19%(17%)、大学卒(文科系)21%(19%)、大学卒(理科系)22%(20%)、大学院卒 12%(10%)、専修学校卒 14%(14%)と、高校卒、専修学校卒を除く各学歴で前年を上回った。

【括弧内は令和6年新規学卒者(令和5年5月調査)の数値。P12 表9、図7、P20 附属統計表第7表】

(注1) 「D.I.(Diffusion Index:ディフュージョン・インデックス)」とは、変化の方向性を表す指標である。

(1) 「労働者過不足判断 D.I.」は、調査時点において、労働者が「不足」と回答した事業所の割合から「過剰」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。

この判断D.I.がプラスであれば、人手不足と感じている事業所が多いことを示す。

(2) 「雇用判断 D.I.」は、労働者数について、当該期間末を前期間末と比べて「増加」と回答した事業所の割合から「減少」と回答した事業所の割合を差し引いた値である。なお、季節による変動があるため、季節調整(注3)を行っている。

この判断D.I.がプラスであれば、前期間末よりも増加させた事業所が多いことを示す。

(注2) 「令和7年新規学卒者」とは、令和7年3月卒業予定者、又は概ね卒業後1年以内の者を令和7年3月卒業予定者とほぼ同等の条件で令和7年度に採用する者をいう。

(注3) 令和6年2月調査以降に公表の季節調整値は、令和5年11月調査までの結果に基づき過去に遡って改定したため、令和5年11月調査以前の公表値と異なっている。